

2 令和 6（2024）年度自己評価

ー今年度の重点目標についてー

評価の基準：Aー大変良くできた	Bーよくできた	Cーやや不十分	Dー不十分
-----------------	---------	---------	-------

- 1 魅力ある授業・わかる授業を通して、生徒自らが意欲的に学ぼうとする集団づくりに努めるとともに、家庭学習や自主学習の習慣化を図り確かな学力を身につけさせる。【評価B】

授業アンケートでは、98%の生徒が授業に意欲的に取り組むと回答し、生徒アンケートでも、97%の生徒が授業にしっかりと取り組んでいると回答した。その一方、保護者アンケートでは、家庭学習が不十分であると回答した保護者は4割近くいるという結果であった。

- 2 生徒一人一人に部活動や各種活動、資格取得等への積極的な取組を促すことで、自分の適性や個性、興味関心等の自己理解を深めさせるとともに、計画的な進路指導、個に応じた進路指導を展開し、希望進路の実現を図る。【評価A】

校外活動では、農業クラブ全国大会、関東ブロック高等学校生徒商業研究発表大会、などで活躍するとともに、部活動では、インターハイ・関東大会に多くの部活動（バドミントン部、陸上競技部、弓道部、馬術部、写真部等）が出場した。さらに資格取得では、国家資格である運行管理者、測量士補や日商簿記検定2級等などの各種資格を取得した。3年生の卒業後の進路については、12月末時点で、宇都宮大学をはじめ国公立大学に4名の進学を決めるとともに、栃木県警察、宇都宮消防などの公務員、大手民間企業への就職など着実に実績あげている。

- 3 ICTを活用したオンライン授業、動画活用、課題の電子配信等について効果的な取組を実践することにより、教科の専門性を高めるとともに生徒の学力向上に努める。【評価B】

授業や講話等においてオンライン配信、電子黒板を活用することはもちろん、teamsで指導資料や学力の定着を確認する課題を配信するなど、指導の個別化、学習の個性化に努める教科がある。

本校は、今年度、文部科学省のDXハイスクールに採択され、ICTに係る備品等の整備を行なったことから、今後も全教職員が、ICTを活用した効果的な授業の研究に取り組み、教科の専門性を高めた教育活動を実践するとともに、生徒が興味や関心、意欲を持ち、思考を深める学習を展開し、学力の向上に努めたい。

- 4 「白楊三訓」（挨拶励行・時間厳守・整理整頓）を生活指導の基盤として、人権に配慮した公平な指導を行うことにより生徒一人一人の人格の形成を図るとともに、生徒間の相互理解を深め、協同体意識を高め、いじめのない人間関係づくりを行う。【評価B】

生徒アンケートでは、白楊三訓の理解や取組、人権に配慮した公平な指導など生徒指導について、肯定的な意見が80%以上であり概ね良好な結果であった。今年度は、生徒や保護者、関係教職員に対して、積極的にスクールカウンセラーを活用するとともに、Q-Uテストの実施と結果分析講習会等を開催できた。今後も講習会等の内容を生徒指導に活用することで、生徒間の相互理解を深め、いじめのない人間関係づくりの取組に努めたい。

- 5 本校の特色や魅力を効果的に発信するための広報活動（公開授業やホームページの更新）の工夫・改善を図り、中学生や保護者等の理解を深めることで、学ぶ意欲の高い生徒募集につなげる。

【評価A】

保護者アンケートでは、86%の保護者が一斉メールやホームページで積極的に情報を発信していると回答している。今年度は、PTA総会等の機会を活用し授業参観を行ったり、ホームページを積極的に更新し教育活動を報告したり広報活動に努めた。また、一日体験学習では中学生1,090名、コロナ禍前の状況と同様に一般公開を行った白楊祭では5,000名を超える来場者を迎え盛大に開催することができ

た。また、本校ホームページの閲覧数は433万件（12月末時点）を超え、前年度より100万件以上閲覧数が増えていることから、多くの方に本校の教育活動等の情報を届けることができたと思われる。

6 学科間の連携を図り、校外活動や課題研究において協働的な取組を推進することで、教職員のさらなる資質・能力が発揮され、生徒たちにとって魅力ある活動が提供できる教育環境を整える。

【評価B】

本校では、生徒たちに魅力ある活動が提供できるよう、各学科の特徴を生かした様々な取組を行っている。今後は、本校の長年の課題でもある学科間の連携をさらに推進するため、現在の総合選択制専門高校としての学びを進化させ、より学科横断的な学習を推進する『未来共創型専門高校』を目指した7学科を横断するような協働的な取組に力を入れていく必要がある。

そこで、今年度より流通経済科では、2023年8月に開業した、芳賀・宇都宮 LRT に着目し、「白楊高校がライトレールで観光地化を目指します」という商品開発から本校の観光地化を目指すプロジェクトを開始した。その第一歩として、LRT の形をしたお土産品となるスイートポテトを開発し（スイートポテトの一部原料に農業経営科で栽培したかぼちゃを使用したほか、スイートポテトのパッケージには情報技術科が撮影した写真を使用）、宇都宮駅等での販売が順調に進んでいるところである。

また、本校は、今年度、文部科学省の進める高等学校 DX 加速化事業（DX ハイスクール）の採択校になったことから、ICT を活用した探究的な学びを強化するための環境整備を行うことができた。今後はそれらを活用し、より生徒にとって魅力的な教育活動を展開していきたい。

令和 6（2024）年度学校関係者評価

自己評価に対する評価委員からの意見

1 アンケート結果及び自己評価について

- ・ JR 宇都宮駅や LRT にも近い立地条件や、馬術部など他の県立高校にない特色があることが本校の強みである。また、よく挨拶ができたり、地域のボランティアに力を入れたりしている面も魅力ある学校づくりにつながっている。
- ・ 生徒の学習に対する意欲的な姿が感じられる。その裏には、先生方が生徒たちに向ける愛情と努力により信頼関係がしっかりしているからであると考えられる。
- ・ 学校祭をはじめとする学校行事が充実しており、重点目標の実現に向け、教職員が生徒たちに向ける愛情と努力、それに対し生徒も学業・部活動に充実した学生生活を展開している様子が感じられる。
- ・ 各学科で特色のある活動を積極的に実施している様子が伺える。目標設定が明確になされ、それに対する自己評価がしっかりとできている。
- ・ 高校生と大学生がプロジェクトを一緒にやっていると大学生にも良い影響を与えてもらえる。ぜひ大学生も入れていただきたい。さらに相互のプロジェクトの交流コラボなどもやっているとさらに良いと考える。

2 学校関係者評価に基づく今後の改善方策等

- ・ 学校の教育活動においては、今後も学校全体で授業改善等に取り組み魅力ある授業・わかる授業を実践するとともに、生徒が自ら学ぶ習慣を定着させ、学力が向上できるように努める。
- ・ これまでの部活動や校外活動に加え、大学講座やオープンキャンパス等にも積極的に参加するよう指導し、生徒たちの自己理解を深めさせ、希望進路の実現につなげる。
- ・ 生徒や保護者アンケート等の自由記述の内容などを真摯に受け止め、指導内容の共通理解を図るなど改善策等を検討し生徒指導の充実に努める。
- ・ 保護者への教育活動の周知等については、ホームページや一斉メール等の工夫・改善を図り、学校と家庭が連携した指導の充実に努める。